

群馬県【外国人児童生徒等教育に関する講義・演習】  
2020年4月9日(木)

**子どもたちの複言語・複文化を育てるための  
指導観①**

国土館大学 小池 亜子  
連絡先 : koikeako@kokushikan.ac.jp

1

**複言語・複文化環境で育っている  
子どもたち**

ことばの力を高める「指導観」を  
校内教職員で共有する

<参考文献>  
中島和子(2010)『マルチリンガル教育への招待  
—言語資源としての外国人・日本人年少者—』ひつじ書房  
中島和子(2016)『完全改訂版 バイリンガル教育の方法  
—12歳までに親と教師ができること—』アルク

2

・家庭では、親が片言の日本語力であっても、  
できるだけ日本語を使って子どもと会話したほうがよい。(×)

⇒ 1. 母語の大切さについて

・初めて日本語を学ぶ子どもは、適応指導や日本語学習を  
在籍学級と切り離して1か月間程度集中的に行うのがよい。(×)


⇒ 2. 在籍学級での学びの大切さについて

・友達や先生と日常のおしゃべりがよくできるようになれば、  
個別指導は不要で、在籍学級での授業が十分に理解できる。(×)

⇒ 3. ことばの力の3側面について

3

**共有したい指導観とまなざし  
その1 複数の言語・文化を持っている子**

😞 日本語ができない子 ではなく、  
 〇〇語ができる子  
〇〇の文化で育っている子 🙌🙌

それにプラスして、日本語も！ **すごい！**

4

### 大切な「母語」の力

- ・ 「母語」が十分に発達していないと、  
社会性・情緒面・知能 にマイナスの影響
- ・ 家庭と学校で複数の言語を使い分けても、  
子どもの言語能力や認知能力の発達が  
遅れることはない。

保護者は、**自分が最も得意な言語で、毎日**  
子どもに **たくさん 話しかけ、話し合い、**  
**読み聞かせ**をすることが重要です。

5

5

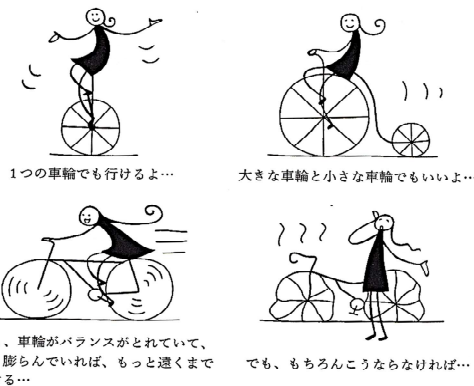
### 学校全体の教職員で保護者に伝えること

家では、お父さん、お母さんが、  
一番得意な〇〇語で、毎日、たくさん学校での話を  
聞いてあげて、〇〇語で、たくさん話し合ってください。  
〇〇語の読み書きも教えてあげてください。

そうしないと、  
子どもは学校で日本語がどんどん上手になって、  
〇〇語をすぐに忘れてしまいます。大きくなったとき  
お父さん、お母さんと〇〇語で話したり相談したりする  
ことができなくなってしまいます。

6

### 2言語の到達度と認知面の関係



(中島2010, p.35、中島2016, p.7) (Cummins 1985:10をもとに作成)

7

7

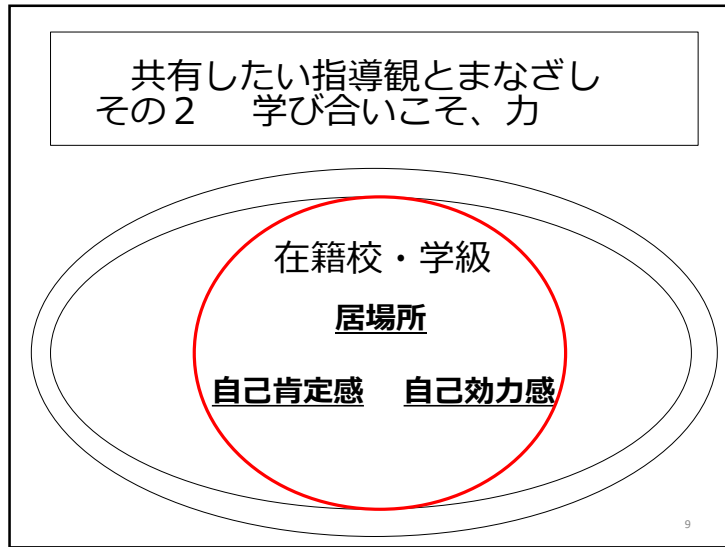
### 母語支援の先生の大切な役割

- ・ 母語の力を見取る
- ・ 母国での学習内容、習得状況を確認する
- ・ 母語で概要をまとめて説明する
- ・ 母語で子どもの背景知識を引き出す
- ・ 母語でディスカッションをする
- ・ 母語で文章を書かせる  
→その後、日本語で。

思考と関係する力  
を、得意なほうの  
言語を使って  
伸ばす

入り込み支援では、少し離れたところから見守り、  
できるだけ担任教員や級友の発言を聞かせて参加させ、  
子ども自身から助けを求めるサインが出るのを待つ。

8



9

学級での学び合いがお互いの力を伸ばす

在籍学級が、第2言語習得、社会的適応、学力向上を可能にする学びの場。

在籍学級から取り出し（すぎ）てしまうのは非生産的である。（移民の子どもの教育に関するOECD報告書）

- ・達成可能な目標を設定する
- ・学習目標に言語面の到達目標を加える
- ・キーとなる語彙の予習、復習をする
- ・自分の考えを「書く」ことを奨励する

10

学級の友達と仲良くなる環境づくりが先決

「ブラジルから来た子とお話ができるようにしたいから、カタカナでポルトガル語を書いて。」

ある日本人児童から母語支援助手の先生への「お願い」ノート

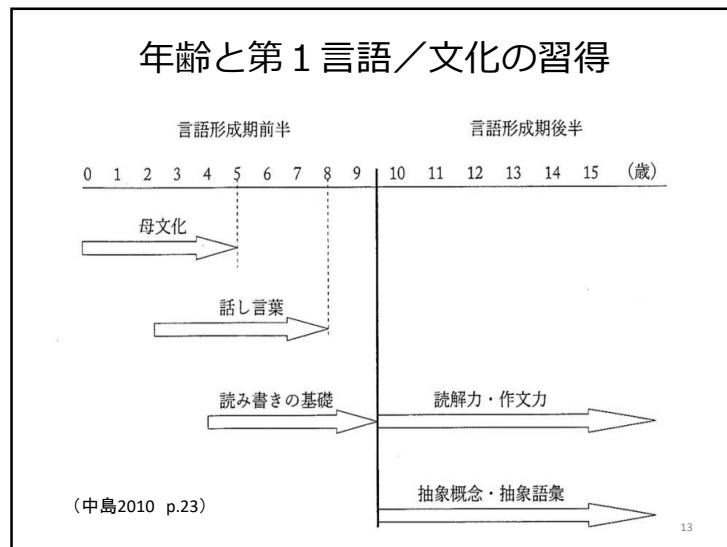
11

共有したい指導観とまなざし  
その3 ことばの力を多面的に観る

ことばの力の3側面

- ①日常会話の力  
1対1の対面コミュニケーションの力 約1,2年で伸長
- ②弁別的言語能力  
音と文字の関係、文字・表記 指導が必要 約2年
- ③**教科学習言語能力** Academic Language Proficiency  
学習への参加、意識的な指導、長期的な支援が必要

12



13

### 日本生まれだからだいじょうぶ???

①おしゃべりはよくできる、、、でも、、、

③教科の学習活動に参加することばの力  
**要支援!**

- 8～9歳以降に来日、母語で年齢相応の読み書きができる、母国で学校経験がある → 強み
- 日本生まれ、母語の基礎が形成途上の年齢で来日、あるいは、帰国・転校で行ったり来たり → より長期間の支援が必要

14

### 言語形成期前半 (～9歳ぐらい)

- この時期の子どもは、文法的な規則を理解し応用することはできない

ことばのシャワーを浴びて自然習得できる  
楽しい経験を通して体験まるとことばを覚える

【支援のしかたを考えるポイント】

1対1の双方向での話しかけ、話し合いをたくさん  
本の読み聞かせを通して、読み書きの初歩を

15

### 言語形成期後半 (10歳ぐらい～)

- 語彙力で日本語ネイティブの子どもに追いつくのが大変

自らの意思による努力が可能  
学校や地域により仲間がいれば意欲的に

【支援のしかたを考えるポイント】

語彙を増やすために多読が必須、考えを書く  
進路を意識させて優先学習事項を精選

16

子どもの行動には理由がある

- 両言語が伸び悩んでいる状態では、、、、

(例) 学校で  
 教室の中をふらふら歩き回る  
 着席はしているがぼうっとしている  
 言いたいことが言えず、暴力をふるう  
 パニックになる  
 友だちとうまくかかわれない など

17

17

学習面での困難点

(例)  
積極的に発言するが何を言っているか不明  
一生懸命に文字を写しているが意味がわかっておらず、  
習得もできていない  
文字を音読できるが意味がわかっていない

- 理解できているか、どの段階でつまづいているのか、よく観察し、その子どもにとって適切な支援を行う。
- 希望進路への見通しを本人や保護者と話し合い、入試等から逆算して具体的な学習の道筋を示す。本人自身のやる気と自信が最重要。安心と励まし。

18

18

先生がつながって、その子の学びをつなげる

学級担任 子ども同士で助け合える学級環境づくり  
単元の学習ポイント、学級で学ぶべき  
活動と個別指導がよい活動を精選する

~を工夫すれば、その子は~できる

日本語指導担当 その子の強みや興味の把握  
 具体的な支援方法を知らせる

↑ ↑ ↑ ↑ ↑  
 管理職 だれが担当でも補完し合えるよう支援

19

19

学びの場所、かかわる人が多ければ多いほどよい

日本人の子どもたちにとっても、多様な価値観にふれ、複眼的な見方を身に付けることは、これからの時代に有利!

20

20